

プログラミング教材の課題に取り組む際に必要な情報を理解し活用する態度の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 西宮市立上ヶ原南小学校 伊藤 道海

<p>本時の目標</p> <p>・それぞれの場での課題を理解し、適切に行動することができる。(環境の把握)</p> <p>・学習中、適切な言葉で他者と交流することができる。(コミュニケーション)</p>	<p>校種・学年</p> <p>特別支援学級・1年</p>
	<p>教科・領域</p> <p>自立活動</p>
	<p>アプリ・ソフト</p> <p>・GoGoロボットプログラミング「ロジーボのひみつ」 ・工作生物ゲズンロイド ・トイオ・コレクション</p>
	<p>備考</p>

○本時の展開

	○学習活動 (◆指導上の留意点)
導入	<p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>今まで学習したことを活かして「ひまわりロボットランド」で学ぼう。</p> <p>○今まで取り組んだことがある3つのプログラミング教材が「ロジーボ島」「ゲズンロイド島」「なかよし島」という3つの場にあることを確認する。</p> <p>◆3つの場の課題をクリアできたら、スタンプカードにスタンプがもらえることを伝える。</p>
展開	<p>○「ロジーボ島」で GoGoロボットプログラミング「ロジーボのひみつ」に取り組む。</p> <p>◆難しいようであれば、実際に身体を動かして、ロボットの動きを再現させる。</p> <p>○「ゲズンロイド島」で「工作生物ゲズンロイド」に取り組む。</p> <p>◆スムーズに工作ができるように、事前に用紙を切っておいたり、テープを貼る場所がわかりやすいように色を塗っておいたりするなど配慮する。</p> <p>○「なかよし島」で「トイオコレクション」の「クラフトファイター」と「フィンガーストライク」に取り組む。</p> <p>◆対戦相手をこちらで指定するなどスムーズに取り組めるように声かけをする。</p>
まとめ	<p>○本時の振り返る。</p> <p>◆修了証(スタンプカード)で表彰し、がんばって取り組んだことを具体的に褒める。</p>

育成できる情報活用能力

◎教師の説明と場の表示を見て、どのような活動に取り組むのか理解できる。

育成できる情報活用能力

◎友達と協働して、それぞれの場の課題を理解し楽しく取り組むことができる。

育成できる情報活用能力

◎スタンプカードにスタンプを押してもらうためにどのような活動に取り組めばよいか理解できる。

児童・生徒の感想
<ul style="list-style-type: none"> ・ロジーボが難しかったけど楽しかった。 ・もっとゲズンロイドを作りたい。 ・クラフトファイターでもっと形を変えて対戦したい。

<情報活用能力の育成とその効果>

・場の設定やスタンプカードのシステムを理解し、友達と協働しながら、3つのプログラミングの課題に楽しく取り組むことができた。

自分の体験したことを表現するためにアプリケーションを活用する力の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 播磨町立播磨西小学校 真嶋 大輔



本時の目標 ・自分が体験したことを友だちに伝えるために、わかりやすくスライドにまとめることができる。 ・オンラインで、他校の児童に発表することで、積極的に交流しようとする態度を養う。	校種・学年 特別支援学級・自閉情緒学級
	教科・領域 自立活動
	アプリ・ソフト ・Canva ・Google Meet
	備考

○本時の展開

○学習活動（◆指導上の留意点）	
導入	○キッザニアで体験したことを振り返る。 ◆自分の体験した職業や仕事内容などワークシートを見ることで想起させる。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ○○小学校にキッザニアでの体験を伝えよう。 </div> ○Canva を使って発表用スライドを作成する。 ◆デザインを選ばせることで、スライドの型を意識させる。 ◆できるだけシンプルにわかりやすいスライドになるよう声掛けを行う。
まとめ	○録画機能を使って、発表の様子を録画する。 ◆できるだけ、ゆっくりはっきりと話すように声掛けを行う。 ◆友だちの発表動画を見て、コメントをつけさせることで相互評価を行うようにさせる。

育成できる情報活用能力

◎Canva でデザインを選び、スライドを作成することで、シンプルで伝えたいことがわかりやすいスライドを作ることができる。

育成できる情報活用能力

◎相手を意識した発表（プレゼンテーション）の方法を育成することができる。

児童の感想
・写真を入れるだけで簡単にスライドを作ることができた。 ・自分が思ったより早口でしゃべっていることに気が付いた。 ・緊張したけど、練習していたから上手に発表することができた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・専用のアプリを使うことで、スライドづくりのハードルを下げることができた。
- ・オンラインで他校のクラスに発表を行うことで、相手を意識し、伝えたいことを絞って発表することができた。
- ・事前に発表の様子を録画しておくことで、当日に欠席した児童も発表することができた。